

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立杉戸農業高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	専門学科の特性を踏まえ、魅力ある分かりやすい目指す学校像が設定されている。学校の現状や課題など踏まえて概ね適切に設定されているが、次のステージに向け、学校の特色や強みを更に生かした学校像を模索していただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	前年度と比べて整理され、学校の取り組むべき方向が三つの柱として設定されている。開かれた学校づくりの視点を含めた目標を設定するとともに、学校の置かれた状況などを把握した上で、目指す学校像の実現に向けての中期的な目標となるように更に重点化した内容にすることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校自己評価システム委員会と分掌・学科等が連携し、学校全体のシートに基づいて分掌・学科等のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。学校自己評価システムをより円滑に運営するために、組織間の連携を強化するとともに、教職員全体が参画するように更に工夫していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	前年度に比べ、方策が整理され、課題の解決のための重点的な取組が進められている。評価指標が方策の達成状況を評価するものとは必ずしもなっていないため、より判断しやすい指標となるよう検討し、方策を計画的に実施することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が教職員の教育活動状況を把握し、学校の現状を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深め、課題の解決に向けて、学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	昨年度から学校評価懇話会を年3回開催し、第2回懇話会を中間評価の機会と位置付けることにより、進行管理が適切に行われるようになった。前年度の学校自己評価や学校関係者評価・アンケート結果などを分析し、次年度の取り組むべき課題や改善策として具体的な方策の設定に生かしている。今後更に分掌・学科等と学校全体を連携させ、より組織的なPDCAサイクルを確立していただきたい。	
特記事項			